4305

ヘ7
4305

百九

貸本 吉田自生軒

霞亭文庫

下ノ関化生ノ軍談

貸本 吉田自生軒

猫魔達

玉松門鳳ノ添削

おしかさより今まで世まぐもなえぬ
まのゐ急とはなくせものの実急ハ
くせものくせものの卵ハ男ゐさら
しくしくしくしと急とも
寝しまを孫ま(吶芳)とに人間のせいとい
わるなひなぐしぞれば数代事をも
紛じ芳波右衛門尉濱平たよぶまし

第二

貸本 吉田自生軒

貸本 吉田自生軒

ゆきぐつたはしきもなかるまもそ出れ　ゆきまぐまりれ
うれゆかゆかゆかりれいとのりとどたがうりかう
中ぞれ風はさだけてわかうへをけしきこそ
とぢりがせれあけてゐかなとぞれの松とふれ
とうて嵐がうふかれあかれとがれわせて
やがれちりつ日はてりつ花ちりつ見ちもな
さけれあやとなしまれ　夕ぐれそとぞひりようね
春はうは雪れ姫と春はびてゆうてゐとり

とそ　ぐつくしに男とやけしえんちがきりぞえ
とそ世のことはざとなりぬかも恋ゆへそはわ
ざろや我もこがるゝおこうかみ　ゆみぢれゆれゆみぢ
ぢれといもうしいもとしまぜてかざしとわふれのうへ
ふこのれはおちろと袖ぐちうへ　さうれとは
家ぬりとさうれけふはわふれのかみあつとわ
ゆせて先とはろとこわはさうれまれやさぞ
やくいれの松ぢろ松のうへだとさうなしとさ

かたにかの付きて持れ三宝荒神やしがたが笑ひ多拠
れ抜き流人鈴後先をと青ほ鳴にて目はあ無れ土海松
のれと夜をかて忘ひ出せんでにあり桜ハ花ハ麻和わひ
和わ武和わ和わ和まれ殿次れ名に造酒をと忘れ今土海
とれ御伝ん忘てひ御伝ん亜ハ忘とう称と鼓えん称ハ流男と
びかふ忘ひ付ハ古くたなまぐ花れ金谷光れ生うと遅と
とれ御ふ今ハ忘ひ奉れハ和ハもてぬ不ハ御ぬ今ハ忘ひ
ひ此れ笑ひ思ふ不成ともひ身に其ぬ今ハ先ハ今ハ

第五

天うん志ゆんくれん時とはく夜波右衛門尉浅
平歌とかろ浮しあるとかうじ姫君もあるとを
いまし人の忠を老先わしあつめやうびと三寄
小袖なるゆせいれ狂ぞあぐひなれ笑無れ
屋かるに立へて見ゆへだかわるに松もひつぐちも
ちつやうせうなれえぞにかれつきこたま
かてをかへかく死人のたつこれ山とかしきれ

貸本 吉田自生軒

風はさん／＼としてりうぜんたる手とおり中宮の儀ぜいうど
ろさゐひいはわ勝長忠がむさう／＼ゐとまで見
やられ志まざと見しうまうとまでうろとれと
富ひもそぞうに紀州は百姓たれ皆礼兼よむ
ざまづ又見年大武法師が志う志ん猫のかくだは
今うれ屋りたいてゆ高りけばうは男女とらの
とらふげく／＼かれ大きわにはむと猿まで屋敷
のゐ猿あとも云住る大将中宮ひまくあらの色

おんなのきれとても何条事ゆゑさうたらう
むかし川ら宮中れさ毎ゆやさあ元山家
本をう志ん申ゆ代しゆうじあんちんのまほうと
ちじ見け志申ゆ嫁ゆくまへしとれ信君を
よそ童へ毎くらる道 信 九しれのまとたまへ
十丈れ府のかとうたゆがれ法水をとて二三川の
月よもとすわに業間中元とていふ成老そ付
元治尚宝寺の礼屋ゆえ紀生れたえん人

貸本 吉田自生軒

右此本者依小子之慈姆王附秘密
音節自遂校合令開版者也

加賀掾

二條通寺町西入町

山本九兵衛刊